### ◇ 10月の天文暦 ◇

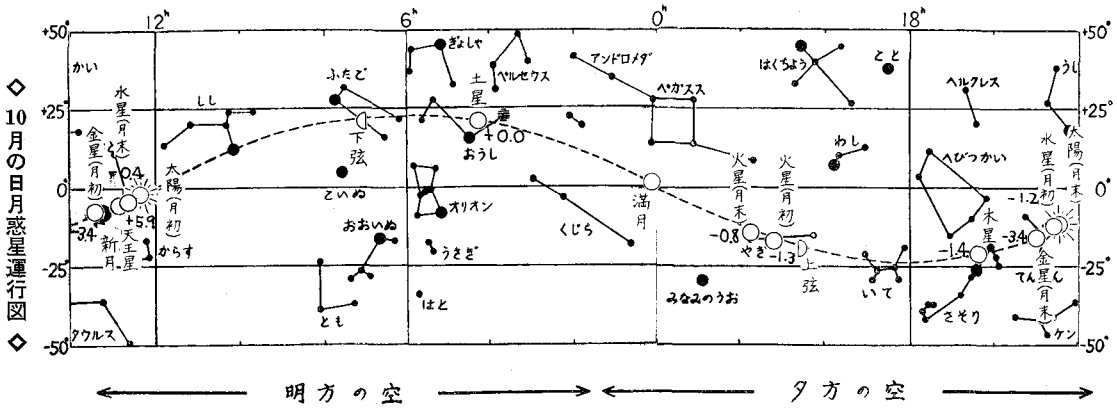
| 日 | 時 | 記　　事 |
|---|---|---|
| 4 | 21 | **望** |
| | 24 | 月　　最近 |
| 8 | 7 | 天王星　合 |
| 9 | 0 | 水　星　外合 |
| | 8 | 寒　露（太陽黄経 195°） |
| 11 | 14 | **下　弦** |
| 18 | 17 | 月　　最遠 |
| 19 | 17 | **朔** |
| 24 | 11 | 霜　降（太陽黄経 210°） |
| 27 | 15 | **上　弦** |

## M. シュワルツシルト

この小柄な，いたずらっぽい茶色の目をくりくりさて，かん高い声でドイツなまりの明解な英語を喋べる人ほど世界中の天文屋から愛されかつ尊敬されている人を私は知らない．近代天文学の創始者の一人としてあまりにも有名なK．シュワルシルトを父にもつ二代目であるが，昔はよく共著で論文を書いた奥さんのバーバラとの間には子供がいない．まことに残念である．

恒星内部構造および進化の理論については，彼は京大の林教授とともに東西の横綱である．そのへんの事情は彼の名著「恒星の構造と進化」をみれば容易に納得できる．彼はまた気球天文学の開祖である．世を驚かせた太陽粒状斑の写真に始まるこの方面の彼の業績は不朽のものである．しかし，彼の本領はここにはない．彼の本領は，若き日の脈動星の研究以来，恒星大気，内部，太陽，プラズマとテーマこそちがえ，一貫してすべての研究に示された創造力と鋭い洞察力にある．余人ならば計算誤差として見逃がしたかもしれない殻源モデルの熱不安定性も彼の目を逃がれることはできなかった．彼の論文を読む者は，研究とはこうしてやるものなのかという深い感慨に討たれずにはいられないであろう．

（撮影：成相恭二）

彼の愛すべき人柄と本物を見わける洞察力とが重なると，そこに絶大な教育効果があらわれる．彼はまた自らドイツ癖と自認する世話焼きである．多くの人は，学会のときなどに，彼がひとの研究に対し時には本人も気付かぬ意義をひき出し激励の弁をふるう光景を見たに相違ない．成相恭二氏がこの写真を撮ったときには，「君は天文学に集中しなくてはいけない．」と笑っていったが，同時に彼の研究をほめてくれたとのことである．

彼はきちょうめんな人である．それかあらぬか，近年国際天文学会副会長にされ，ゆきとどいた事務処理をやったという．しかしこんなところに彼をつかってはいけない．すべてに練達なプリンストン天文台スピッツァ台長の隣室に居て，横手にアリゾナ硅化木の大木を置き後に抽象画を掛けた机の前で鉛筆を手に沈思を楽しむ姿か，はたまた若き学究と共に考え適切な助言を与えている姿こそ彼にふさわしい．そのような彼の存在が今や世界の天文学者にとって激励となっている．マーチンよ，末長く健在であれ！　（海野和三郎）